

HP Project and Portfolio Management Center

ソフトウェアバージョン: 9.30

新機能と変更点

ドキュメントリリース日:2014年9月 (英語版)
ソフトウェアリリース日:2014年9月



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 1997 - 2014 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe®は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft®およびWindows®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passport のログインページの **[New users - please register]** リンクをクリックします。

適切な製品 サポート サービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

次の表に、最後にリリースされたエディション以来、このドキュメントに加えられた変更点を示します。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。<http://www.hp.com/go/hpsoftwaresupport>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェア/パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>です。

目次

第1章: PPM Centerバージョン9.30の新機能	6
バージョン9.30の新機能	6
新機能	6
機能拡張	12
承認	16
アップグレードの注意点	17
変更または新規作成された文書のタイトル	19
関連情報	19
第2章: アップグレードの影響	21
アップグレードパス	21
Oracleデータベースの互換性	21
Microsoft Windows	22
Oracle	23
HP-UX	23
IBM AIX	24
Red Hat Linux	24
SUSE Linux	25
機能拡張とマイグレータの互換性	25
HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suite	26
HP Object MigratorおよびMercury GL Migrator	27
HP Deployment Management Extension for Oracle Technology	29
カスタマイズソリューション	29
データモデルの変更	29
テーブル	30
ビュー	31
エンティティの変更	31
バックグラウンドサービスの変更	32
レポートタイプの変更	32
特殊コマンドの変更	32
第3章: システム要件および設定の更新	33
server.confファイルの変更	33

logging.confファイルの変更	39
license.confファイルの変更	40
第4章：サーバディレクトリ構造とサーバツールの変更	41
<PPM_Home>/bin	41
ドキュメントのフィードバックを送信	43

第1章: PPM Centerバージョン9.30の新機能

本項の内容

- 「バージョン9.30の新機能」(6ページ)
- 「アップグレードの注意点」(17ページ)
- 「変更または新規作成された文書のタイトル」(19ページ)
- 「関連情報」(19ページ)

バージョン9.30の新機能

ここでは、バージョン9.30の新機能について説明します。

新機能

バージョン9.30では、次の新機能が導入されました。

- **古いPPM Centerデータベースデータの削除**

PPM Centerの増大するデータベースサイズがデータベース操作にインパクトを与えPPM Centerのパフォーマンス全体に影響を与える可能性があります。スタンドアロンのPPM削除ツールは、PPM Center管理者が削除基準を指定することによって古いデータベースデータを完全に削除できるように設計されています。

PPM削除ツールには次の機能があります。

- PPM Center Oracleデータベース内でステータスを持つすべてのエンティティの動的な統計概要
- 管理者による組織のビジネスニーズに基づく削除基準の定義、および古いデータの削除によるデータベース負荷の削減
- 管理者が定義した削除基準に合ったダウンロード可能なXMLファイル、およびダウンロード可能な削除履歴レポート

詳細については、『Installation and Administration Guide』を参照してください。

- **JBossのTomcatによる置換**

PPM Centerのプラットフォームを簡素化し、JBoss 4.05の来たるべきサポート終了問題に対応するために、PPM Centerバージョン9.30は、根本的な変更を実装しました。すなわち、JBossテクノロジーをオープンソースのTomcatテクノロジーで置き換えました。

この変更の結果、次のサーバ設定パラメータがPPM Centerから削除されます。

- APP_SERVER_MULTICAST_PORT
- APP_SERVER_NAMING_SERVICE_RMI_PORT
- APP_SERVER_NAMING_SERVICE_BINDING_PORT
- APP_SERVER_WEBSERVICE_PORT
- APP_SERVER_JRMP_INVOKER_RMI_PORT
- APP_SERVER_POOLED_INVOKER_BINDING_PORT
- APP_SERVER_HAJNDI_RMI_PORT APP_SERVER_HAJNDI_BINDING_PORT
- APP_SERVER_POOLEDHA_BINDING_PORT
- APP_SERVER_JMX_RMI_PORT

詳細については、『Installation and Administration Guide』を参照してください。

● HPのライセンス機構と整合させるために実装されたAutopass統合

PPM Centerバージョン9.30では、PPM Centerの元のライセンス機構をHPのライセンス機構で置換するためにAutopass統合が実装されました。新しいAutopassライセンスソリューションでは、ライセンス生成と検証プロセスの簡素化、より多くの製品ライセンスタイプのサポート、柔軟性が高いライセンスインストールオプションの提供、および製品ライセンス管理の簡素化が実現されています。

- **ライセンス生成と検証プロセスの簡素化:** Autopassライセンスを申請または生成するには、HP Licensing for Softwareポータル (<https://poetic-stg.glob.itcs.hp.com>) に移動するだけで済みます。

Autopassライセンスキーファイルのインストール時には、PPM CenterはPPM ServerのIPアドレスをライセンスファイルに割り当てられているIPアドレスと照合します。クラスタ化された環境では、ライセンスファイルに割り当てられているIPアドレスはクラスタ内のプライマリノードのIPアドレスと一致します。

- **より多くの製品ライセンスタイプが利用可能:** 永続的製品ライセンス(または期限付きライセンス)に加えて、PPM Center 9.30では試用ライセンスまたは評価ライセンスも利用できます。これにより、新規カスタマはPPM Centerの機能を試用または評価できます。
- **より柔軟性が高いライセンスインストールオプションが利用可能:**

PPM Centerの新規カスタマの場合、PPM Centerを初めてインストールする際、次のオプションがあります。

- 評価ライセンスまたは永続的製品ライセンスがない場合、インストールウィザードの[ライセンスの選択] ページで [いいえ、後でライセンスをインストールします。] オプションを選択できます。試用ライセンスが自動的に生成され、ただちにアクティブになります。これにより、PPM Centerを限定数のユーザで60日間使用できます (試用ライセンスで利用可能な機能とキャパシティを表示するには、PPM Workbenchの[ライセンス管理] ウィンドウをチェックできます)。

試用ライセンスが期限切れになる前に、PPM Centerの全機能を使用したい場合は、HP Licensing for SoftwareポータルからAutopassライセンスファイルを取得し、管理コンソールまたは新たに導入されたkLicenseInstall.shツールを使用して、ライセンスファイルをインストールできます。

- 評価ライセンスまたは永続的製品ライセンスがある場合、次のいずれかの方法でAutopassライセンスキーファイルをインストールできます。
 - PPM Center 9.30インストールプロセス中に[ライセンスの選択] ウィンドウでインストールする。
 - PPM Center 9.30のインストール後、試用ライセンスが期限切れになる前に、管理コンソールまたは新たに導入されたkLicenseInstall.shツールを使用してライセンスキーファイルをインストールする。

PPM Centerの既存のカスタマの場合、PPM Centerをバージョン9.30にアップグレードする前に、HP Licensing for Softwareポータル (<https://poetic-stg.glb.itcs.hp.com>) から購入したPPM Center製品に対応したAutopassライセンスを生成する必要があります。アップグレードの成功後にPPMサーバを適切に起動するには、新たに導入されたkLicenseInstall.shツールを使用して、Autopassライセンスファイルをインストールする必要があります。

- **製品ライセンス管理の簡素化:** 新しい管理コンソールツール ([管理コンソール] > [管理タスク] > [ライセンス]) が追加され、製品ライセンスを簡単に管理できます。管理コンソールツールを使用すると、次のことが可能になります。
 - PPMサーバを停止および再起動せずにAutopassライセンスファイルをインストールする
 - ライセンスの許容量および有効期限日を含め、PPMサーバにインストールされているライセンスのサマリを表示する
 - Autopassライセンスファイルを簡単に削除する
- インストールされたライセンスは、ファイルシステムではなく、PPM Centerデータベースに格納されます。これにより、インストールされたライセンスはライセンスのインストール後直ちに有効になります。PPMサーバを停止および再起動する必要はありません。

詳細については、『Installation and Administration Guide』、『Upgrade Guide』、および『セキュリティモデルのガイドとリファレンス』を参照してください。

- **プロジェクト作業計画用のクイックビューが利用可能**

バージョン9.30用の作業計画のために、**クイックビュー**が導入されています。**クイックビュー**とその他のビューを切り替えることができます。プロジェクト作業計画を初めて開くと、**クイックビュー**で開かれます。いったんログアウトしてから作業計画に戻ると、ログアウト時のビューで開かれます。

このビューを使用すると、次の情報の組み合わせにすばやくアクセスできます。

- スケジュールされた開始日、スケジュールされた終了日、スケジュールされた期間などのスケジュール関連情報
- 実際の開始日、実際の終了日、達成率などの作業計画の進捗に関する情報
- タスクの長さやタイミングなどのスケジュール関連情報のグラフ表示であるガントチャート

詳細については、『HP Project Managementユーザーガイド』を参照してください。

● **[スタッフィングプロファイル] ページにガントビューが利用可能**

バージョン9.30用の [スタッフィングプロファイル] ページに、**ガントビュー**が導入されています。**ガントビュー**と**テーブルビュー** ([スタッフィングプロファイル] ページの古いビュー) を切り替えることができます。 [スタッフィングプロファイル] ページを初めて開くと、**ガントビュー**で開かれます。いったんログアウトしてからスタッフィングプロファイルに戻ると、ログアウト時のビューで開かれます。

ガントビューでは、ポジションをより簡単に表示または編集できます。たとえば、ガントチャートでタイムラインバーをドラッグすると、ポジション予測 デマンド やリソース割り当てを編集できます。

詳細については、『HP Resource Managementユーザーガイド』を参照してください。

● **[Resource Allocation Management] ページにガントビューが利用可能**

バージョン9.30用の [Resource Allocation Management] ページに、**ガントビュー**が導入されています。**ガントビュー**と**テーブルビュー** ([Resource Allocation Management] ページの古いビュー) を切り替えることができます。 [Resource Allocation Management] ページを初めて開くと、**ガントビュー**で開かれます。いったんログアウトしてから [Resource Allocation Management] ページに戻ると、ログアウト時のビューで開かれます。

ガントビューでは、リソース割り当てをより簡単に管理できます。たとえば、ガントチャートでタイムラインバーをドラッグすると、リソース割り当てを編集できます。

詳細については、『HP Resource Managementユーザーガイド』を参照してください。

● **Resource Managementの最適化**

[Resource Allocation Management] ページの **ガントビュー**では、リソースをアサインするポジションのリソース推奨事項を取得できます。この機能は、アサインするリソースを決定する際に役立ちます。

詳細については、『HP Resource Managementユーザーガイド』を参照してください。

● **PPM Centerとアジャイル管理ツールとの統合を可能にするアジャイルオープンSDKの提供**

バージョン9.30以降、PPM CenterではアジャイルオープンSDKと呼ばれるソリューションが提供されます。このソリューションでは、さまざまなコネクタを使用してPPM Centerを任意のアジャイル管理ツール(内部と外部の両方のアジャイルツール)と統合できます。したがって、PPMプロジェクトマネージャには、このソリューションによりPPM Centerでハイブリッドプロジェクトを管理するより包括的なアプローチが提供されます。

注意: バージョン9.30では、アジャイルオープンSDKによって有効にされた統合ソリューションを使用して、PPM CenterタイムシートをHP Agile Managerと統合することはできません。PPM CenterタイムシートとHP Agile Managerとの統合を使用したい場合は、バージョン9.22のままにしておくか、この統合が利用可能になるまでバージョン9.30上で次に利用可能なパッチリリースを待つことを選択できます。

詳細については、『HP Solution Integrations Guide』を参照してください。

● PPM Center用の新しいSSH2クライアント

PPM CenterのHP Deployment Managementモジュールには、FIPS 140.2準拠の暗号化アルゴリズムをサポートするために、新しいSSH2クライアントが導入されています。新しいSSH2オプションは、PPM Workbenchの[環境] ウィンドウの[接続プロトコル] ドロップダウンリストから選択できます。

[環境] ウィンドウの[接続プロトコル] リストでは、新しいSSH2クライアントには[SSH2]という名前が付けられ、古いSSH2の名前は[SSH2 (レガシー)]に変更されています。[環境] ウィンドウの[転送プロトコル] リストでは、新しいセキュアコピー2には[セキュアコピー2]という名前が付けられ、古いセキュアコピー2の名前は[セキュアコピー2 (レガシー)]に変更されています。

詳細については、『HP Deployment Management Configuration Guide』を参照してください。

● 運用レポート用のHP提供Excelレポート

PPM Centerバージョン9.30には、既存の運用レポートのExcelバージョンが用意されています。これらのレポートは、BusinessObjectsを使用せずにPPM Center標準インターフェースから生成できます。これらのExcelレポートには次のものが含まれています。

- デマンド対キャパシティレポート
- プロジェクトステータスリストレポート
- 財務サマリレポート
- タイムシートコンプライアンスレポート
- ETLジョブ履歴レポート

詳細については、『Operational Reportingユーザーガイド』を参照してください。

● [プロジェクトの概要] ページに追加された新しいタブ

PPM Centerバージョン9.30では、[プロジェクトの概要] ページに次の2つのタブが追加されています。

- **[スタッフィング]** タブプロジェクトのスタッフィングプロファイルを作成する場合、PPM Centerによって [プロジェクトの概要] ページの **[スタッフィング]** タブに導かれ、そこで **[スタッフィングプロファイル]** ページと同様にスタッフィングプロファイル情報を表示および編集できます。これは、[プロジェクトの概要] ページでプロジェクト情報とスタッフィングプロファイル情報を集中的に設定するのに便利です。

詳細については、『HP Project Managementユーザーガイド』と『HP Resource Managementユーザーガイド』を参照してください。

- **[コスト]** タブプロジェクトのコストおよび財務のさまざまなビューを統合することにより、[プロジェクト概要] ページに **[コスト]** タブが導入されました。プロジェクトマネージャは、このタブを使用して、リソース、スケジュール、アードバリュー、および請求の観点から、プロジェクトの予算、コスト、および財務を一元的に表示できます。

プロジェクトレベルから正確な財務情報を確認できるため、プロジェクトマネージャは、プロジェクトコストのステータスおよびプロジェクトの他の要素を監視し、プロジェクトをスケジュールどおりに予算内で納品できます。

[コスト] タブには、下の表で説明する4つのビューがあります。

ビュー名	説明
財務サマリ	<p>プロジェクトマネージャは、予測コスト、計画コスト、予算、および実績コストに関する進捗情報の概要を把握できます。</p> <p>プロジェクトの財務サマリが作成されていない場合は、財務サマリチャートにデータは表示されません。</p>
リソース予測コスト	<p>プロジェクトのスタッフィングプロファイル関連のリソース予測コストデータが表示されます。</p> <p>[リソース予測コスト] チャートは、プロジェクトのスタッフィングプロファイルが作成されているときのみ使用できます。</p>
作業計画コスト	<p>プロジェクトの作業計画関連のコストデータが表示されます。</p> <p>[作業計画コスト] チャートは、プロジェクトがTime Managementと統合されているときのみ使用できます。</p>
アードバリュー分析	<p>プロジェクトマネージャは、このビューを使用し、作業計画関連のコストデータを基にしてアードバリュー分析を実行できます。</p> <p>[アードバリュー分析] チャートは、プロジェクトがTime Managementと統合されているときのみ使用できます。</p> <p>プロジェクトマネージャは、このビューで使用できる最適化ツールを利用して、プロジェクトの範囲を調整し、さまざまなシナリオの比較まで行って、予算とスケジュールへの影響をモデル化することもできます。</p>

詳細については、『HP Project Managementユーザーガイド』を参照してください。

機能拡張

バージョン9.30には、次の機能拡張が実装されました。

モジュール	機能拡張
管理ツール	<ul style="list-style-type: none">● 指定したサーバログのメール通知 管理者として、正規表現またはログレベルと正規表現の組み合わせを指定することにより、通知を受けるサーバログ情報を決定できます。● アップグレード完了後のデータベースオブジェクト比較レポートの自動生成 これは、パフォーマンス上の問題を引き起こす可能性がある欠損オブジェクト(トリガ、インデックス、および制限)の識別に役立ちます。
ダッシュボード	<ul style="list-style-type: none">● [ポートレット定義の作成] ページのプリファレンスの定義ステップの新しいチェックボックス 棒グラフ、積み上げ棒グラフ、集合棒グラフ、円グラフでは、[合計の表示]という新しいチェックボックスが、[ポートレット定義の作成] ページのプリファレンスの定義ステップに追加されています。このチェックボックスが利用可能になったため、[合計] データを表示するかどうかを決定できます。● [Excelにエクスポート] 機能の拡張 バージョン9.30以降、一部のエンティティ上で[Excelにエクスポート] をクリックすると、データがHTMLページでなく、.xlsxファイル (Microsoft Excelファイル) にエクスポートされます。この機能拡張によって、より多くのExcel機能 (書式設定や計算など) を使用してデータを処理できるようになります。 次に適用可能なエンティティの例を示します。<ul style="list-style-type: none">■ PPM Centerポートレット■ [プロジェクトの検索] ページ■ プロジェクト作業計画

モジュール	機能拡張
Demand Management	<ul style="list-style-type: none"> 最初に編集可能なフィールドへのフォーカスの設定 HP Demand Managementモジュールで次のページを起動した場合: <ul style="list-style-type: none"> [リクエストの詳細] ページ [リクエストの先取り] ページ [リクエストの作成] ページ ページ上で編集可能な最初のテキストフィールドに、フォーカスが自動的に移動します。これにより、編集可能なフィールドの操作を直接行えます。
Deployment Management	<ul style="list-style-type: none"> デフォルトポートを使用せずにサーバへ接続 バージョン9.30以降、次のいずれかの接続プロトコルを使用してサーバに接続時に、デフォルトポート番号 (22) 以外のポート番号を指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> SSH SSH2 (レガシー) SSH2 詳細については、『HP Deployment Management Configuration Guide』を参照してください。
プラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> ログ機能拡張の実装による意味のあるログ情報の提供 PPM Centerログメッセージの形式が見直され、PPM Center管理者またはHPサポートがエラーメッセージの理由をより簡単に効率的に特定できます。
HP Project Management	<ul style="list-style-type: none"> [Microsoft Project統合ポリシー] ページで利用可能な外部先行タスクに対する新しいオプション <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>External Predecessors</p> <p><input type="checkbox"/> Preserve existing external predecessors in this project when the work plan is synchronized from Microsoft Project.</p> </div>

モジュール	機能拡張
ドキュメント	<ul style="list-style-type: none"> ● オンラインヘルプシステムとしての [ヘルプ] メニューの追加およびPPM Centerドキュメントの提供 <ul style="list-style-type: none"> ■ [ヘルプ] メニューがPPM Centerユーザインタフェースに追加されています ■ PPM Centerドキュメントがオンラインヘルプシステムとして提供されています <p>PPM Centerオンラインヘルプシステムにアクセスするには、[ヘルプ] メニューから[ヘルプセンター]をクリックします。</p> <p>オンラインヘルプシステムを移動するには、ナビゲーションペインでフォルダを展開し、目的のトピックをクリックします。</p> ■ 大半のPPM CenterドキュメントのPDF版は製品にも添付されています
統合	<ul style="list-style-type: none"> ● HP Agile Managerとの統合に対する機能拡張 <ul style="list-style-type: none"> ■ [タスクの詳細] ページの[ハイブリッドプロジェクト] タブでは、マッピング関係の確立後に、テーマステータスと機能ステータスの2つの追加グラフが利用可能です。 ■ 同期の完了後に、プロジェクト作業計画内で実績工数や関連リソースなどの実際のアジャイルリリース情報を表示できます。
MLUサポート	<ul style="list-style-type: none"> ● アラビア語とスウェーデン語の言語パックが利用可能です
HP Financial Management	<ul style="list-style-type: none"> ● 以下によりコストデータの精度を確保し、コスト計算への可視性を提供します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ コストロールアップサービスの改善 ■ コストレートに対する編集可能なフィールドの制限 ● 次の監査履歴の導入により、コスト変更に対する可視性を提供します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ コスト係数の変更 ■ コストルールの変更 ■ リソースのコスト関連属性に対する変更 (リソースカテゴリ、組織単位、部署、地域、ロールを含む)

モジュール	機能拡張
HP Resource Management	<p>バージョン9.30では、Resource Managementモジュールに対して次の機能拡張が利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none">• 選択したポジションを現在のスタッフリングプロファイルにインポートできます。• [リソースプールの通知の設定] ページと[既定のリソースリクエスト通知の設定] ページに新しいオプションが追加され、ポジションの削除またはその予測デマンドの変更時に、リソースマネージャに通知できます。• スタッフリングプロファイルの監査履歴が拡張されています。• ポジションの削除時に確認ダイアログボックスが表示されます。
セキュリティ	<ul style="list-style-type: none">• 発信SMTP認証の許可 <p>発信SMTP認証を許可するための機能拡張が実装されています。結果として、SMTP_PORTパラメータのデフォルト値が変更され、次のサーバ設定パラメータが導入されています。</p> <ul style="list-style-type: none">■ SMTP_AUTH_USERNAME■ SMTP_AUTH_PASSWORD■ SMTP_USE_SSL■ SMTP_USE_STARTTLS <p>発信SMTP認証を許可するように電子メールサーバを設定するには、SMTP_PORTパラメータのデフォルト値を変更し、server.confファイルのSMTP_SERVERセクションの下に新しいパラメータを手動で追加します。これらのパラメータの詳細については、『Installation and Administration Guide』を参照してください。</p>

モジュール	機能拡張
パフォーマンスの機能拡張	<ul style="list-style-type: none"> ● PPM Centerパフォーマンスの改善 <p>バージョン9.30には、PPM Centerシステムパフォーマンスを改善するために改ページ位置の自動調整機能拡張が実装されました。システムパフォーマンスを向上するために、次のページまたはポートレットのレコードの合計数はデフォルトで表示されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [リクエスト検索結果] ページ ■ リクエストカテゴリのJavaおよびビルダポートレット <p>次ページにエントリがある場合は、ページナビゲーションボタンが有効になります。</p> <p>詳細については、『HP Demand Managementユーザーガイド』と『Installation and Administration Guide』を参照してください。</p> ● システムパフォーマンスログの改善 <p>PPM Centerバージョン9.30では、PPM Centerモニタを全般的に制御するために新しいパラメータのENABLE_ALL_PERFORMANCE_MONITORが導入されました。このパラメータをtrueに設定すると、UIモニタ、ポートレットモニタ、およびバックグラウンドサービスモニタの3つのモニタが有効になっているかどうかに関係なく有効になります。このパラメータをfalseに設定すると、UIモニタ、ポートレットモニタ、およびバックグラウンドサービスモニタは、自分自身のパラメータに従って有効または無効になります。このパラメータがtrueに設定されている場合、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ URLリクエストに対する対処の遅延がUI_MONITOR_THRESHOLDパラメータに指定されているしきい値を超えると、URLリクエストへの対処時に実行されたSQLがテーブルPPM_PERFORMANCE_LOGに記録されます。 ■ バックグラウンドサービスアクティビティがBACKGROUND_SERVICE_MONITOR_THRESHOLDパラメータに指定されているしきい値を超えると、アクティビティの実行時に実行されたSQLがテーブルPPM_PERFORMANCE_LOGに記録されます。 <p>詳細については、『Installation and Administration Guide』を参照してください。</p>

承認

PPM Centerバージョン9.30には、次の承認が含まれています。

- IPv6のサポート

IPv6サポートを有効にする方法の詳細については、『Installation and Administration Guide』を参照してください。

- PPMサーバプラットフォームとしてのMicrosoft® Windows® Server 2012 R2 (Standard EditionおよびEnterprise Edition、64ビット)のサポート
- PPMサーバプラットフォームとしてのRed Hat Enterprise Linux 6.4 (32ビットと64ビットの両方)のサポート
- Java SE Development Kit (JDK) 7u45 (1.7.0 Update 45) 以降のアップデート (Oracleから入手可能)のサポート
- PPMサーバプラットフォームとしてのVMware ESXi Serverバージョン5.5パーティションのサポート
- サポートされているすべてのブラウザに対するJava 1.7.0 Update 51以降のアップデート (32ビットと64ビット)のサポート
- PPM CenterクライアントプラットフォームとしてのMicrosoft® Windows® 8.1 Enterprise Edition (32ビットと64ビットの両方)のサポート
- 外部WebサーバとしてのApache HTTP 2.4のサポート
- Microsoft® Windows® Server 2012 R2プラットフォーム上の外部WebサーバとしてのMicrosoft IIS 8.5のサポート
- すべてのPPMサーバプラットフォーム上でのOracle 11.2.0.4 (Standard EditionおよびEnterprise Edition、RACおよび非RAC)のサポート
- 次のブラウザのサポート:
 - Microsoft® Windows® 7および8.1 Enterprise Edition (32ビットと64ビットの両方) 上でのInternet Explorer 11
 - Mozilla Firefox ESR 24.0
 - Google Chrome 36以降

詳細については、PPM Centerバージョン9.30に対応した『System Requirements and Compatibility Matrix』([HPマニュアルサイト](#)でも可)を参照してください。

アップグレードの注意点

バージョン9.1xからバージョン9.30へのアップグレードでは、次の点に注意してください。

- **アップグレード処理:** アップグレードプロセスによる既存のPPM Centerインスタンスへの影響の詳細は、「[アップグレードの影響](#)」(21ページ)に記載されています。

この章では、PPM Centerのデータモデルとエンティティの変更についても扱います。これは、PPM Centerインスタンスに対して行われたカスタマイズにも影響する可能性があります。

- **システム管理:** PPM Centerのシステム管理者およびデータベース管理者向けの注意点は、「[システム要件および設定の更新](#)」(33ページ)を参照してください。

変更または新規作成された文書のタイトル

以下のテーブルに、PPM Centerバージョン9.30のドキュメントに対して行った変更をリストします。

PPM Centerバージョン9.20以前	PPM Centerバージョン9.30
該当なし	セキュリティガイド (9.30で追加)

関連情報

次に示すドキュメントには、本バージョンのインストール、設定、カスタマイズに関する詳細な情報が記載されています。

- Installation and Administration Guide
- Upgrade Guide
- System Requirements and Compatibility Matrix
- 標準 インタフェースのカスタマイズ
- スタートアップガイド

その他の詳細な内容については、次のPPM Center製品の文書を参照してください。

- HP Demand Management
- HP Deployment Management
- HP Financial Management
- HP Portfolio Management
- HP Project Management
- HP Program Management
- HP Resource Management
- HP Time Management
- Application Lifecycle Management
- HP Center Management for Quality Center
- HP Document Management

- Webサービス
- Operational Reporting

第2章: アップグレードの影響

この章では、アップグレード処理の影響と、アップグレードの結果変更されるPPM Centerデータモデルおよびエンティティについて説明します。また、PPM Centerデータベース、機能拡張、マイグレータとサードパーティ製品を組み合わせる場合のアップグレードパスと互換性もまとめます。

- 「アップグレードパス」(21ページ)
- 「カスタマイズソリューション」(29ページ)
- 「データモデルの変更」(29ページ)
- 「エンティティの変更」(31ページ)

アップグレードパス

PPM Centerバージョン9.30へのアップグレードには、PPM Centerバージョン9.20 (サービスパックがある場合とない場合のいずれかの構成) がインストールされていることが条件になります。これよりも古いバージョンがインストールされている場合、まずバージョン9.20にアップグレードしてから、PPM Centerバージョン9.30にアップグレードしてください。バージョン9.20にアップグレードする方法については、バージョン9.20の『Upgrade Guide』を参照してください。

サードパーティ製品 (Oracleデータベースソフトウェアなど) のサポート対象バージョンで変更が行われている場合、アップグレードに影響する可能性があるのでご注意ください。ユーザ環境がアップグレード可能かどうかの確認と、アップグレードの計画作成については、『Installation and Administration Guide』および『System Requirements and Compatibility Matrix』を参照してください。

Oracleデータベースの互換性

次の表では、PPM Centerバージョン9.1x、9.2x、および9.30のPPMサーバでサポートされるOracleデータベースのバージョンをまとめます。各バージョンの詳細については、『System Requirements and Compatibility Matrix』を参照してください。

表の網掛け部分は、PPM Centerバージョン9.30でサポートされていない環境を示します。それ以外の部分については、製品の組み合わせもPPM Centerバージョン9.30のサポート対象となり、これ以前のサポート対象環境と一致することがあります。

注: 現在インストールされているすべてのOracleバージョンに最新のパッチが適用済みであり、最新のCritical Patch Updateのガイドラインに従っている必要があります。詳細情報は、<https://metalink.oracle.com>で入手できます。

- [「Microsoft Windows」\(22ページ\)](#)
- [「Oracle」\(23ページ\)](#)
- [「HP-UX」\(23ページ\)](#)
- [「IBM AIX」\(24ページ\)](#)
- [「Red Hat Linux」\(24ページ\)](#)
- [「SUSE Linux」\(25ページ\)](#)

Microsoft Windows

表 1. PPM Centerバージョン9.1x、9.2x、および9.30でサポートされるOracleデータベースおよびMicrosoft Windowsプラットフォーム

Oracleバージョン	Windows Server 2003、Windows Server 2003 SP2 Standard Edition およびEnterprise Edition (32ビット および64ビット)	Windows Server 2003 SP1 Standard Edition およびEnterprise Edition (32ビット)	Windows Server 2003 R2、Windows Server 2003 R2 SP2 Standard Edition およびEnterprise Edition (32ビット および64ビット)	Windows Server 2008 Standard Edition およびEnterprise Edition および Datacenter Edition (64ビット)	Windows Server 2008 R2 Standard Edition およびEnterprise Edition (64ビット)	Windows Server 2012 R2 Standard Edition およびEnterprise Edition (64ビット)
11.1.0.7 11.1.0.7 RAC	9.10~9.14	9.10~9.14	9.10~9.14	9.10~9.14	9.10~9.14	サポート対象外
11.2.0.1 11.2.0.1 RAC	9.10~9.14	9.10~9.14	9.10~9.14	9.10~9.14	9.10~9.14	サポート対象外
11.2.0.2 11.2.0.2 RAC	9.12~9.14、9.2x	9.12~9.14、9.2x	9.12~9.14、9.2x	9.12~9.14、9.2x、9.30	9.12~9.14、9.2x、9.30	9.30
11.2.0.3 11.2.0.3 RAC	9.14、9.2x	9.14、9.2x	9.14、9.2x	9.14、9.2x、9.30	9.14、9.2x、9.30	9.30
11.2.0.4 11.2.0.4 RAC	サポート対象外	サポート対象外	サポート対象外	9.30	9.30	9.30

Oracle

表2. PPM Centerバージョン9.1x、9.2x、および9.30でサポートされるOracleデータベースおよびOracleプラットフォーム

Oracleバージョン	Solaris 9 ^a	Solaris 10 ^b	Oracle Enterprise Linux 5	Oracle Enterprise Linux 6
11.1.0.7 11.1.0.7 RAC	9.10~9.14	9.10~9.14	9.14	サポート対象外
11.2.0.1 11.2.0.1 RAC	9.10~9.14	9.10~9.14	9.14	サポート対象外
11.2.0.2 11.2.0.2 RAC	9.12~9.14、9.2x、9.30	9.12~9.14、9.2x、9.30	9.14、9.2x、9.30	9.2x、9.30
11.2.0.3 11.2.0.3 RAC	9.14、9.2x、9.30	9.14、9.2x、9.30	9.14、9.2x、9.30	9.2x、9.30
11.2.0.4 11.2.0.4 RAC	9.30	9.30	9.30	9.30

a. PPM Centerバージョン9.1xのサポート対象は、Solaris 9/パッチ1から9です。
b. PPM Centerバージョン9.1xのサポート対象は、Solaris 10/パッチ1から8です。

HP-UX

表3. PPM Centerバージョン9.1x、9.2x、および9.30でサポートされるOracleデータベースおよびHP-UXプラットフォーム

Oracleバージョン	HP -UX 11i v2 ^a	HP -UX 11i v3 ^a
11.1.0.7 11.1.0.7 RAC	9.10~9.14	9.10~9.14
11.2.0.1 11.2.0.1 RAC	9.10~9.14	9.10~9.14
11.2.0.2 11.2.0.2 RAC	9.12~9.14、9.2x、9.30	9.12~9.14、9.2x、9.30
11.2.0.3 11.2.0.3 RAC	9.14、9.2x、9.30	9.14、9.2x、9.30

Oracleバージョン	HP -UX 11i v2 ^a	HP -UX 11i v3 ^a
11.2.0.4 11.2.0.4 RAC	9.30	9.30
a. バージョン9.1xではPA-RISCおよびItaniumの両方をサポートし、バージョン9.20ではItaniumだけをサポートします。		

IBM AIX

表4. PPM Centerバージョン9.1x、9.2x、および9.30でサポートされるOracleデータベースおよびIBM AIXプラットフォーム

Oracleバージョン	AIX 5Lバージョン5.3	AIXバージョン6.1	AIXバージョン7.1
11.1.0.7 11.1.0.7 RAC	9.10~9.14	9.10~9.14	サポート対象外
11.2.0.1 11.2.0.1 RAC	9.10~9.14	9.10~9.14	サポート対象外
11.2.0.2 11.2.0.2 RAC	9.12~9.14	9.12~9.14、9.2x、9.30	9.2x、9.30
11.2.0.3 11.2.0.3 RAC	9.12~9.14	9.14、9.2x、9.30	9.2x、9.30
11.2.0.4 11.2.0.4 RAC	サポート対象外	9.30	9.30

Red Hat Linux

表5. PPM Centerバージョン9.1x、9.2x、および9.30でサポートされるOracleデータベースおよびRed Hat Linuxプラットフォーム

Oracleバージョン	Red Hat Enterprise Linux AS 4.0 ^{ac}	Red Hat Enterprise Linux AS 5.0 ^{bc}	Red Hat Enterprise Linux AS 6.0 ^c
11.1.0.7 11.1.0.7 RAC	9.10~9.14	9.10~9.14	サポート対象外
11.2.0.1 11.2.0.1 RAC	9.10~9.14	9.10~9.14	サポート対象外
11.2.0.2 11.2.0.2 RAC	9.12~9.14	9.12~9.14、9.2x、9.30	9.2x、9.30

Oracleバージョン	Red Hat Enterprise Linux AS 4.0 ^{a c}	Red Hat Enterprise Linux AS 5.0 ^{b c}	Red Hat Enterprise Linux AS 6.0 ^c
11.2.0.3 11.2.0.3 RAC	9.12~9.14	9.14、9.2x、9.30	9.2x、9.30
11.2.0.4 11.2.0.4 RAC	サポート対象外	9.30	9.30

a. PPM Centerバージョン9.1xでは、最初のAS 4.0リリースおよびアップデート1から6をサポートします。
b. PPM Centerバージョン9.1xでは、最初のAS 5.0リリースおよびアップデート1から4をサポートします。
c. 32ビットおよび64ビットプラットフォームの両方がサポート対象です。

SUSE Linux

表 6. PPM Centerバージョン9.1x、9.2x、および9.30でサポートされるOracleデータベースおよびIBM AIXプラットフォーム

Oracleバージョン	SUSE Linux Enterprise 9 ^{a c}	SUSE Linux Enterprise 10 ^{b c}	SUSE Linux Enterprise 11 ^c
11.1.0.7 11.1.0.7 RAC	9.10~9.14	9.10~9.14	9.10~9.14
11.2.0.1 11.2.0.1 RAC	9.10~9.14	9.10~9.14	9.10~9.14
11.2.0.2 11.2.0.2 RAC	9.12~9.14	9.12~9.14、9.2x、9.30	9.2x、9.30
11.2.0.3 11.2.0.3 RAC	9.12~9.14	9.12~9.14、9.2x、9.30	9.2x、9.30
11.2.0.4 11.2.0.4 RAC	サポート対象外	9.30	9.30

a. PPM Centerバージョン9.1xでは、最初のEnterprise 9リリースおよびSP1からSP4をサポートします。
b. PPM Centerバージョン9.1xでは、最初のEnterprise 10リリースおよびSP1からSP3をサポートします。
c. 32ビットおよび64ビットプラットフォームの両方がサポート対象です。

機能拡張とマイグレータの互換性

- [「HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suite」\(26ページ\)](#)
- [「HP Object MigratorおよびMercury GL Migrator」\(27ページ\)](#)

- [「HP Deployment Management Extension for Oracle Technology」\(29ページ\)](#)

HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suite

テーブル2-7は、Oracle E-Business SuiteをサポートするHP Deployment Management Extension for Oracle E-Business SuiteおよびPPM Centerをバージョンごとに示しています。

網掛け部分は、PPM Centerバージョン9.30でサポートされないバージョンを示します。それ以外の部分は、このPPM Centerバージョンでサポート対象となる組み合わせを示します。

テーブル2-7. PPM CenterバージョンでサポートされるOracle E-Business SuiteおよびHP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suiteバージョン

Oracle E-Business Suiteのバージョン	HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suiteバージョン9.30
11-11.5.6	9.10, 9.11
11.5.7 Application Object Library: FND.E Applications DBA: AD.F 共通モジュール: AK.D Financials Suite: Family Pack A	9.10～9.14、9.2x、 9.30
11.5.8 Application Object Library: FND.F Applications DBA: AD.G 共通モジュール: AK.E Financials Suite: Family Pack C	9.10～9.14、9.2x、 9.30
11.5.9 ^a Application Object Library: FND.G Applications DBA: AD.H 共通モジュール: AK.F Financials Suite: Family Pack D	9.10～9.14、9.2x、 9.30
11.5.10 ^{a, b} Application Object Library: FND.H Applications DBA: AD.I 共通モジュール: AK.G Financials Suite: Family Pack F	9.10～9.14、9.2x、 9.30
11.5.10.2 (CU2) ^b Application Object Library: FND.H Applications DBA: AD.I.6 共通モジュール: AK.G Financials Suite: Family Pack F	9.10～9.14、9.2x、 9.30

Oracle E-Business Suiteのバージョン	HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suiteバージョン9.30
12.0.0–12.1.2 Applications Technology: R12.ATG_PF.A~R12.ATG_PF.B.DELTA.2 Applications DBA: R12.A~R12.AD.B.DELTA.1	9.10~9.14、9.2x、 9.30
12.1.3 Applications Technology: R12.ATG_PF.A~R12.ATG_PF.B.DELTA.3 Applications DBA: R12.A~R12.AD.B.DELTA.3	9.12~9.14、9.2x、 9.30
<p>a. 11.5.8とFND.G Mini Packの組み合わせは、11.5.9の機能に相当します。</p> <p>b. 11.5.8~11.5.9とFND.H Mini Packの組み合わせは、11.5.10の機能に相当します。</p>	

HP Object MigratorおよびMercury GL Migrator

テーブル2-8は、Oracle E-Business SuiteをサポートするMigratorおよびHP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suiteをバージョンごとに示しています。

網掛け部分は、PPM Centerバージョン9.30でサポートされないバージョンを示します。それ以外の部分は、このPPM Centerバージョンでサポート対象となる組み合わせを示します。

テーブル2-8. HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suiteバージョン9.1x、9.2x、および9.30でサポートされるOracle E-Business SuiteおよびHP Migratorバージョン

Oracle E-Business Suiteのバージョン	Kintana Object*Migratorバージョン5.1	Mercury Object Migratorバージョン6.0	HP Object Migratorバージョン7.5	Kintana GL*Migratorバージョン2.0	Mercury GL Migratorバージョン6.0
11–11.5.1	9.1x	9.1x	9.1x	9.1x	9.1x
11.5.2–11.5.6	9.1x	9.1x	9.1x	サポート対象外	9.1x
11.5.7 Application Object Library: FND.E Applications DBA: AD.F 共通モジュール: AK.D Financials Suite: Family Pack A	9.10~9.14、9.2x、9.30	9.10~9.14、9.2x、9.30	9.10~9.14、9.2x、9.30	サポート対象外	9.10~9.14、9.2x、9.30

Oracle E-Business Suite のバージョン	Kintana Object*Migrator バージョン5.1	Mercury Object Migratorバージョン 6.0	HP Object Migratorバージョン 7.5	Kintana GL*Migrator/バー ジョン2.0	Mercury GL Migrator/バージョ ン6.0
11.5.8 Application Object Library: FND.F Applications DBA: AD.G 共通モジュール: AK.E Financials Suite: Family Pack C	9.10～9.14、 9.2x、9.30	9.10～9.14、 9.2x、9.30	9.10～9.14、 9.2x、9.30	サポート対象外	9.10～9.14、 9.2x、9.30
11.5.9 ^a Application Object Library: FND.G Applications DBA: AD.H 共通モジュール: AK.F Financials Suite: Family Pack D	9.10～9.14、 9.2x、9.30	9.10～9.14、 9.2x、9.30	9.10～9.14、 9.2x、9.30	サポート対象外	9.10～9.14、 9.2x、9.30
11.5.10とFND.H Mini Packの組 み合わせ ^{a、b、d} Application Object Library: FND.H Applications DBA: AD.I 共通モジュール: AK.G Financials Suite: Family Pack F	サポート対象外	9.10～9.14、 9.2x、9.30	9.10～9.14、 9.2x、9.30	サポート対象外	9.10～9.14、 9.2x、9.30
11.5.10.2 (CU2) ^{c、d} Application Object Library: FND.H Applications DBA: AD.I.6 共通モジュール: AK.G Financials Suite: Family Pack F	サポート対象外	9.10～9.14、 9.2x、9.30	9.10～9.14、 9.2x、9.30	サポート対象外	9.10～9.14、 9.2x、9.30

Oracle E-Business Suite のバージョン	Kintana Object*Migrator バージョン5.1	Mercury Object Migrator/バージョン 6.0	HP Object Migrator/バージョン 7.5	Kintana GL*Migrator/バージョン 2.0	Mercury GL Migrator/バージョン 6.0
12.0.0–12.1.2 Applications Technology: R12.ATG_PF.A~ R12.ATG_ PF.B.DELTA.2 Applications DBA: R12.A~R12.AD.B.1	サポート対象外	サポート対象外	9.10~9.14 ^e 、 9.2x、9.30	サポート対象外	サポート対象外
12.1.3 Applications Technology: R12.ATG_PF.A~ R12.ATG_ PF.B.DELTA.3 Applications DBA: R12.A~R12.AD.B.3	サポート対象外	サポート対象外	9.12~9.14 ^e 、 9.2x、9.30 ^e	サポート対象外	サポート対象外
<p>a. 11.5.8とFND.G Mini Packの組み合わせは、11.5.9の機能に相当します。</p> <p>b. 11.5.8~11.5.9とFND.H Mini Packの組み合わせは、11.5.10の機能に相当します (HP Object Migrator)。 11.5.8~11.5.9とFinancials Family Pack Fの組み合わせは、11.5.10の機能に相当します (HP GL Migrator)。</p> <p>c. 詳細については、HP Object Migrator Oracle Apps/バージョン11.5.10.2互換性パッチ (#174141) のReadmeを参照してください。</p> <p>d. Oracle Database 10gでOracle Applications E-Business Suite/バージョン11.5.10をサポートするためには、パッチ154770のインストールが必要です。詳細については、HP Object Migrator/バージョン6.0 Database 10g互換性パッチ (#154770) のReadmeを参照してください。</p> <p>e. R12.1.2との互換性パッチをObject Migrator 7.5に適用してください。</p>					

HP Deployment Management Extension for Oracle Technology

本バージョンのPPM Centerでは、HP Deployment Management Extension for Oracle Technologyのサポートに変更はありません。ただし、アップグレードの完了後にExtensionの新バージョンをインストールしてください。

カスタマイズソリューション

アップグレードを行うと、カスタマイズソリューションの動作に影響が発生する可能性があります。カスタマイズの内容をよく確認してから、アップグレードを行ってください。本バージョンで新しく提供される機能のために、カスタマイズ環境が使えなくなることがあります。

データモデルの変更

バージョン9.20から本バージョンへのアップグレードに伴うデータモデルの主な変更点をまとめます。

テーブル

テーブル2-9は、PPM Centerバージョン9.2xと比較したPPM Centerバージョン9.30のテーブルに対する変更を詳しく示しています。いくつかの新しいテーブルが導入され、既存のいくつかのテーブルが変更されています。

テーブル2-9. 9.30でのテーブルの変更

テーブル	変更内容
RPT_FCT_FM_BENEFIT_CELLS	Content Pack 2.0で追加
RPT_FCT_REQUEST_TRANSACTIONS	Content Pack 2.0で追加
RPT_DIM_REQUESTS	Content Pack 2.0で変更
RPT_FCT_FM_FCST_ACTUAL_CELL	Content Pack 2.0で変更
RPT_FCT_FM_APPROVED_BUDGETS	Content Pack 2.0で変更
ITG_AUDIT_EVENTS	9.30で変更
TM_USERS_BILLING_APPROVERS	9.30で変更
TM_USERS_TIME_APPROVERS	9.30で変更
RSC_SIMPLE_ASK_ALLOCATIONS	9.30で変更
RSC_RESOURCE_ASSIGNMENTS	9.30で変更
RSC_POSITIONS	9.30で変更
TM_ACTUALS_EFFORT	9.30で変更
RSC_SIMPLE_ASK_EFFORTS	9.30で追加
KNTA_LICENSE_DATASOURCE	9.30で追加
PPM_FM_COST_SNAP_SHOT	9.30で追加
PPM_FM_COST_AUDIT	9.30で追加
PPM_FM_COST_AUDIT_RATE	9.30で追加
PPM_FM_PLAN_VALUE	9.30で追加
PPMIC_WORKPLAN_MAPPING	9.30で追加
TM_PENDING_APPROVERS_EVALS_TMP	9.30で追加

ビュー

テーブル2-10は、PPM Centerバージョン9.30より後に変更または追加されたビューの一覧です。

テーブル2-10. 9.30でのビューの変更

ビュー	変更内容
RPT_REQ_<Request_Type>	Content Pack 2.0で追加
RPT_TC_<Table_Component>	Content Pack 2.0で追加
RPT_DIM_PORTFOLIO_MANAGERS_MV	Content Pack 2.0で追加
RPT_DIM_WORKFLOW_STEPS	Content Pack 2.0で追加
RPT_DIM_PORTFOLIOS	Content Pack 2.0で追加
RPT_DIM_FM_BENEFIT_MV	Content Pack 2.0で追加
RPT_DIM_FM_BENEFIT_LINE_MV	Content Pack 2.0で追加
RPT_DIM_PROJECTS_MV	Content Pack 2.0で変更
RPT_DIM_PROGRAMS_MV	Content Pack 2.0で変更
RPT_FCT_FM_FA_APPROVED_MV	Content Pack 2.0で変更

データテーブルの変更の詳細については、PPM Centerバージョン9.30の『Data Model Guide』を参照してください。

エンティティの変更

ここでは、HPが提供するエンティティについて、バージョン9.20から本バージョンへのアップグレードに伴う主な変更について説明します。エンティティには、アクセス許可、ライセンス、ポートレット、レポートタイプ、リクエストタイプ、特殊コマンド、トークン、検証、ワークフローが含まれます。いくつかの変更は、記載されているようにサービスパックまたはマイナーリリースで導入されています。

- [「バックグラウンドサービスの変更」\(32ページ\)](#)
- [「レポートタイプの変更」\(32ページ\)](#)
- [「特殊コマンドの変更」\(32ページ\)](#)

バックグラウンドサービスの変更

エンティティ名	変更内容
統合 SDK 同期 サービス (アジャイルソリューション同期 サービスから名前を変更)	9.30で変更

レポートタイプの変更

エンティティ名	変更内容
ETLジョブ履歴	9.30で追加
デマンド対キャパシティレポート	9.30で追加
財務サマリレポート	9.30で追加
プロジェクトステータスリストレポート	9.30で追加
タイムシートコンプライアンスレポート	9.30で追加

特殊コマンドの変更

エンティティ名	変更内容
ksc_create_baseline_staffing_profile	9.22で追加

第3章: システム要件および設定の更新

この章では、PPM Centerバージョン9.30 (特に記載がない場合) でのシステムソフトウェアと設定の変更について説明します。

注: 各プラットフォーム環境に関する内容は、『System Requirements and Compatibility Matrix』を参照してください。

server.confファイルの変更

ここでは、バージョン9.30でのサーバ設定パラメータ (server.confファイル内) の変更について説明します。

表3-1に示すサーバ設定パラメータが追加または変更されました (パラメータの使用目的の変更、有効な値の変更など)。これらのパラメータの詳細については、『Installation and Administration Guide』を参照してください。

表3-1. サーバ設定パラメータの新規追加と変更

パラメータ名	変更履歴	説明
TABLE_COMP_USE_LEGACY	9.30で削除	テーブルコンポーネントのオリジナルのレイアウトを使用するかどうかを設定します。trueに設定した場合、オリジナルのレイアウトが適用されます。

表 3-1. サーバ設定パラメータの新規追加と変更 (続き)

パラメータ名	変更履歴	説明
ENABLE_UNNAMED_RESOURCE_ALLOCATION	9.30で削除	<p>trueに設定した場合、名前なしリソースの割り当てを有効にします。</p> <p>次の両方の条件が満たされる場合にのみ、ユーザは保証アサインを行うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> パラメータがtrueに設定されている ユーザに「Resource Mgmt: 未指定リソースの保証」アクセス許可がある <p>パラメータがtrueになっているが、ユーザにこのアクセス許可がない場合、ユーザは保証アサインを行うことができません。パラメータがfalseの場合は、アクセス許可に関係なくユーザは保証アサインを行えません。</p> <p>注記: このパラメータは、PPM Centerバージョン8.00以降使用されていません。代わりに、ENABLE_PROMISE_RESOURCE_ALLOCATIONが使用されています。</p>
MAX_RESULT_OF_AUDIT_EVENT_QUERY	9.14および9.30の両方で追加	<p>監査イベントクエリ結果の最大数を指定します。デフォルト値は1000。</p>
SEARCH_ALL_REQUEST_TYPE	9.14.0010および9.30の両方で追加	<p>このパラメータをtrueに設定すると、[リクエストの検索] ページの [リクエストタイプ] オートコンプリートリストにリストされているすべてのリクエストタイプを検索できます。ただし、アクセス許可がないリクエストは表示できません。</p>
APP_SERVER_MULTICAST_PORT	9.30で削除	<p>クラスタノードを調整するためにJBossのHAPartitionサービスで使用されるポート。クラスタ内のすべてのノードは同じ値を使用する必要があります。MULTICAST_PORTに設定されている値、またはcache.conf内のキャッシュマルチキャストポートの値 (46545にハードコードされている) と異なる値を指定してください。</p>
APP_SERVER_NAMING_SERVICE_RMI_PORT	9.30で削除	<p>JBoss Naming Service RMI Port。PPMサーバがサーバクラスタの一部になっている場合、このパラメータの値を設定する必要があります。</p>

表 3-1. サーバ設定パラメータの新規追加と変更 (続き)

パラメータ名	変更履歴	説明
APP_SERVER_NAMING_SERVICE_BINDING_PORT	9.30で削除	JBoss Naming Service Binding Port。PPMサーバがサーバクラスタの一部になっている場合、このパラメータの値を設定する必要があります。
APP_SERVER_WEBSERVICE_PORT	9.30で削除	JBoss WebService Port。PPMサーバがサーバクラスタの一部になっている場合、このパラメータの値を設定する必要があります。
APP_SERVER_JRMP_INVOKER_RMI_PORT	9.30で削除	JBoss JRMP Invoker RMI Portで、PPMサーバがサーバクラスタの一部になっている場合に、定義する必要があります。
APP_SERVER_POOLED_INVOKER_BINDING_PORT	9.30で削除	JBoss Pooled Invoker Binding Port。PPMサーバがサーバクラスタの一部になっている場合、このパラメータの値を設定する必要があります。
APP_SERVER_HAJNDI_RMI_PORT	9.30で削除	JBoss HA-JNDI RMI Port。PPMサーバがサーバクラスタの一部になっている場合、このパラメータの値を設定します。
APP_SERVER_HAJNDI_BINDING_PORT	9.30で削除	HA-JNDIサーバがJNPクライアントを待機するときにはバインドするポート。PPMサーバがサーバクラスタのノードとして設定されている場合に、このポートを定義します。
APP_SERVER_POOLEDHA_BINDING_PORT	9.30で削除	JBoss PooledHA Binding Port。PPMサーバがサーバクラスタの一部になっている場合、このパラメータの値を設定する必要があります。
APP_SERVER_JMX_RMI_PORT	9.30で削除	JBoss JMX RMI Port。PPMサーバがサーバクラスタの一部になっている場合、このパラメータの値を設定します。
JNDI_LOOKUP_PORT	9.30で削除	HA-JNDIサーバがJNPクライアントを待機するときにはバインドするポート。この値は、APP_SERVER_HAJNDI_BINDING_PORTパラメータから取得されます。

表 3-1. サーバ設定パラメータの新規追加と変更 (続き)

パラメータ名	変更履歴	説明
SERVER_LOCALE_COUNTRY_CODE	9.22で追加	<p>デフォルト地域設定の国コード。</p> <p>このパラメータはserver.confファイルに手動で追加し、デフォルト地域設定を指定する国コード値を設定します。デフォルト値はnullです。有効な値は、国の任意の2文字の略称(大文字)です。たとえば、デフォルト地域設定をアメリカ合衆国(United States)に設定する場合、このパラメータ値をUSに設定します。</p> <p>このパラメータはSERVER_LOCALE_LANGUAGE_CODEと連携して、通知の送信時にPPM CenterがすべてのPPM CenterユーザとPPM Center以外のユーザをグループ化できるようにします。</p>
SERVER_LOCALE_LANGUAGE_CODE	9.22で追加	<p>デフォルト地域設定の言語コード。</p> <p>このパラメータはserver.confファイルに手動で追加し、デフォルト表示設定を指定する言語コード値を設定します。デフォルト値はnullです。有効な値は、言語の任意の2文字の略称(小文字)です。たとえば、デフォルト表示設定を英語(English)に設定する場合、このパラメータ値をenに設定します。</p> <p>このパラメータはSERVER_LOCALE_COUNTRY_CODEと連携して、通知の送信時にPPM CenterがすべてのPPM CenterユーザとPPM Center以外のユーザをグループ化できるようにします。</p>
USE_SERVER_LOCALE_FOR_NOTIFICATIONS	9.30で追加	<p>通知受取人の地域設定をチェックするかどうかを示すフラグ。この値をtrueに設定すると、電子メール通知の送信時にユーザの地域設定が無視され、代わりにサーバ設定パラメータのSERVER_LOCALE_COUNTRY_CODEおよびSERVER_LOCALE_LANGUAGE_CODEの値が使用されます。これにより、受取人がその地域設定に従ってさまざまなグループに分割されないようになります。</p>
REQUEST_SEARCH_RESULTS_SHOW_TOTAL_NUMBER_OF_RECORDS	9.22.0002および9.30の両方で追加	<p>[リクエスト検索結果] ページのレコードの合計数を表示するかどうかを示すフラグ。システムのパフォーマンスを向上するために、デフォルト値はfalseになっています。</p>

表 3-1. サーバ設定パラメータの新規追加と変更 (続き)

パラメータ名	変更履歴	説明
SSH2_JSCH_DISABLE_STRICT_HOST_KEY_CHECKING	9.22.0001および9.30の両方で追加	trueに設定すると、SSH2クライアントは、そのキーが信頼済みホストのリスト (known_hosts ファイル) にない場合でもリモートホストに接続します。
SSH2_JSCH_KNOWN_HOSTS_FILE_PATH	9.22.0001および9.30の両方で追加	このパラメータ (有効なファイルパス) で値が定義されている場合、PPM Centerはこれを known_hosts ファイルとして使用し、接続先の信頼済みホストのキーを検証します。
ENABLE_TM_WORK_ITEM_EXTERNAL_DATA	9.22で追加	<p>trueに設定すると、次のPPM Workbenchウィンドウで [外部データ] オプションが使用可能になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> [タイムシートポリシー] ウィンドウの [作業項目] タブと [アクティビティ] タブ [オーバーライドルール] ウィンドウの [作業項目タイプ] ドロップダウンリスト ([依存関係] セクションの下)
MAX_CONCURRENT_AGM_REST_CALL_FOR_TIMESHEET	9.22で追加	HP Agile Managerから時間情報をインポートするコンカレントユーザの最大数を指定します。デフォルト値は10で、推奨される値の範囲は1-50です。
REQUEST_LINK_ALM_ENTITY_STATUS	9.22で追加	パラメータ値をfalseに設定すると、PPM Center 不具合ワークフロー駆動による、PPM Center リクエストステータスとALMエンティティステータス間の同期が無効になります。デフォルト値はtrueです。
SMTP_PORT	9.30で変更	通知の送信時にSMTPサーバに接続するために使用されるポート。
SMTP_AUTH_USERNAME	9.30で追加	SMTP認証のユーザ名。
SMTP_AUTH_PASSWORD	9.30で追加	SMTP認証の暗号化パスワード。
SMTP_USE_SSL	9.30で追加	SSLを使用してSMTPサーバに接続するかどうかを指定します。
SMTP_USE_STARTTLS	9.30で追加	STARTTLSを使用してSMTPサーバに接続するかどうかを指定します。

表 3-1. サーバ設定パラメータの新規追加と変更 (続き)

パラメータ名	変更履歴	説明
RMO_OPTIMIZE_CONCURRENT_THRESHOLD	9.30で追加	システムによってサポートされているResource Management最適化機能のコンカレントスレッドの最大数を指定します。
RMO_OPTIMIZE_AMOUNT_THRESHOLD	9.30で追加	Resource Management最適化機能によって処理するデータの最大量を指定します。
RMO_OPT_CONCURRENT_TIMEOUT	9.30で追加	Resource Management最適化機能のタイムアウト (ミリ秒) を指定します。
ENABLE_CONC_FILES_RETRIEVAL	9.30で追加	PPMサーバがOracle E-Business Suiteサーバからログ出力ファイルを取得するかどうかを示すフラグ。 Oracle Apps (Oracle E-Business Suiteの拡張) およびPPMサーバ上でデプロイされているOracleテクノロジーの拡張を使用すると、PPMサーバでOracle EBSサーバからログ出力ファイルを取得する際に、パフォーマンス上の問題が発生する可能性があります。パフォーマンスを改善するには、このパラメータをserver.confファイルに手動で追加し、パラメータ値をfalseに設定して、ログ出力ファイルの取得をオフにできます。デフォルト値はtrueです。
EXCEL_EXPORT_POSITIONS_LIMIT	9.30で追加	[予測計画] ページでExcelにエクスポートできるポジションの最大数を指定します。デフォルト値は2,000。
EXCEL_EXPORT_RESOURCES_LIMIT	9.30で追加	[リソースの検索] ページでExcelにエクスポートできるリソースの最大数を指定します。デフォルト値は3,000。
JSP_COMPILE_EXCLUDE_FOLDERS	9.30で追加	JSP_RECOMPILE_ENABLEDをtrueに設定すると、JSP_COMPILE_EXCLUDE_FOLDERSサーバ設定パラメータで指定されたフォルダ内のJSPファイルに対する変更が実行中のサーバによって取得されるため、すぐそれらの変更を確認できます。 デフォルト: web/knta/rpt;web/knta/test。
TM_REEVALUATE_COUNT	9.30で追加	TM承認者評価サービスで処理するタイムシート再評価情報の量を指定します。

表 3-1. サーバ設定パラメータの新規追加と変更 (続き)

パラメータ名	変更履歴	説明
TM_MAX_TIME_APPROVER_WARNING_COUNT	9.30で追加	警告がスローされる前にシステムによって許可される、タイムシート明細の時間の承認者の最大数を指定します。
TM_MAX_BILLING_APPROVER_WARNING_COUNT	9.30で追加	警告がスローされる前にシステムによって許可される、タイムシートの請求書の承認者の最大数を指定します。
TM_MAX_TIME_APPROVER_ERROR_COUNT	9.30で追加	エラーがスローされる前にシステムによって許可される、タイムシート明細の時間の承認者の最大数を指定します。
TM_MAX_BILLING_APPROVER_ERROR_COUNT	9.30で追加	エラーがスローされる前にシステムによって許可される、タイムシートの請求書の承認者の最大数を指定します。
ENABLE_ALL_PERFORMANCE_MONITOR	9.30で追加	このパラメータをtrueに設定すると、UIモニタ、ポートレットモニタ、およびバックグラウンドサービスモニタの3つのモニタが有効になっているかどうかに関係なく有効になります。このパラメータをfalseに設定すると、UIモニタ、ポートレットモニタ、およびバックグラウンドサービスモニタは、自分自身のパラメータに従って有効または無効になります。

logging.confファイルの変更

ここでは、バージョン9.30でのログパラメータ (logging.confファイル内) の変更について説明します。

表 3-2に示すログパラメータが追加または変更されました (パラメータの使用目的の変更、有効な値の変更など)。これらのパラメータの詳細については、『Installation and Administration Guide』を参照してください。

表 3-2. ログパラメータの新規追加と変更

パラメータ名	変更履歴	説明
ENABLE_SMTP_LOGGING	9.22.0003および9.30の両方で追加	trueに設定すると、重大な例外のメール通知が有効になります。
SMTP.To	9.22.0003および9.30の両方で追加	通知の受取人。

表 3-2. ログパラメータの新規追加と変更 (続き)

パラメータ名	変更履歴	説明
SMTP.From	9.22.0003および9.30の両方で追加	通知の送信者。 指定しない場合、送信者の電子メールアドレスは、server.confファイルのEMAIL_NOTIFICATION_SENDERから導出されます。
SMTP.Subject	9.22.0003および9.30の両方で追加	通知メールの件名。
SMTP.Filter.RegexToMatch	9.22.0003および9.30の両方で追加	監視対象のキーワードまたは正規表現。
SMTP.Filter.LevelMin	9.22.0003および9.30の両方で追加	監視対象の最下位ログレベル。
SMTP.Filter.LevelMax	9.22.0003および9.30の両方で追加	監視対象の最上位ログレベル。
SMTP.delayBetweenChecksInSeconds	9.22.0003および9.30の両方で追加	メッセージキューをチェックする時間間隔 (秒)。
SMTP.SMTPDebug	9.22.0003および9.30の両方で追加	trueに設定すると、メール通知の送信時にデバッグ情報の表示が有効になります。
SMTP.BufferSize	9.22.0003および9.30の両方で追加	バッファキューの長さ。

license.confファイルの変更

license.confファイルは、PPM Centerのライセンス機構変更の結果、バージョン9.30で廃止されました。

PPM Centerが従う新しいライセンス機構の詳細については、『Installation and Administration Guide』を参照してください。

第4章: サーバディレクトリ構造とサーバツールの 変更

ここでは、サーバディレクトリ構造とサーバツールに対して行った変更について説明します。

<PPM_Home>/bin

<PPM_Home>/binディレクトリに含まれている次のスクリプトに対して変更が行われました。

スクリプト名	変更履歴	説明
kBudgetBenefitImport.sh	9.30で削除	廃止
kStandaloneDeploy.sh	9.30で削除	廃止
kClusterDeploy.sh	9.30で削除	廃止
kChangeNameDisplay.sh	9.30で変更	パラメータhは、full_name_formatに変更されました。つまり、次のようにスクリプトを実行します。 sh ./kChangeNameDisplay.sh [-full_name_format] <Full_Name_Format>
kLicenseReader.sh	9.30で削除	廃止

スクリプト名	変更履歴	説明
kLicenseInstall.sh	9.30で追加	<p>HP Licensing for Softwareポータル (https://poetic-stg.glb.itcs.hp.com) からAutopassライセンス (HPから送信された1つの.datファイルまたは複数の.datファイル) を生成し、PPM Centerバージョン9.30のインストールまたはバージョン9.30へのアップグレードに成功したら、kLicenseInstall.shスクリプトを使用して、Autopassライセンスキーファイルをインストールします。新たにインストールしたAutopassライセンスによって、試用ライセンスまたは評価ライセンスがオーバーライドされます。</p> <p>Autopassライセンスキーファイルをインストールするには、次のコマンドを実行します。</p> <pre>sh ./kLicenseInstall.sh <Autopass_License_File_Path></pre> <p>ここで、<Autopass_License_File_Path>は、マシンに保存したAutopassライセンスキーファイルの完全パスです。</p> <p>たとえば、</p> <pre>sh ./kLicenseInstall.sh C:\AutopassLicense.dat</pre>

ドキュメントのフィードバックを送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールで[ドキュメント制作チーム](#)までご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on What's New and What's Changed (Project and Portfolio Management Center 9.30)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、HPSW-BTO-PPM-SHIE@hp.com宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。